

DAILYSUN

NEW YORK

4/24/2026 No.5199

教育機関、どう選ぶ？

ニューヨーク近郊エリアの教育情報、まとめました。

巻頭特集

ニューヨークから始まる
これからの日本人学校・補習授業校 p.2

学校・塾選びの参考に
気になる日系教育機関の紹介 pp.3-8

日本文化の祭典がやってくる
ジャパンパレード特集 pp.11-13

注目ダンサーや氷彫刻で名を馳せるアーティストなど
ニューヨークで活躍する日本人 p.10, pp.20-21

「朝ラーメン」を仕掛けるアメリカ人女性
巷のレストラン紹介 -Ramen By Ra pp.18-19



NYの最新ニュースが毎日届く！
無料メールマガジンの登録は
こちらから

ニュージャージー日本人学校
児童生徒 随時 受付中

日本へ帰国する児童生徒の受け入れ 文部科学省認定
英語教育も充実した学校 日本語補習授業校
www.NewJerseyJapaneseSchool.org

NEX NIPPON EXPRESS

海外引越

SAPIX USA
体験授業受付中

NY校・NJ校・MH校
2024よりサンノゼ校開校

TEL: 914.358.5337
Email: info@sapix.nyc

Yamazirushi
All Natural
Yuzu-It
YUZU PEPPER SAUCE

液体 柚子こしょう

ひとふりでピリッとさわやか

Dream Together

000 CBCGROUP

CBC AMERICA LLC
www.cbcamerica.com

ビジネスカードは
ヒカリ印刷

特急名刺 (翌日仕上) も取扱中。
事務用品の印刷・販売グッズ

212-302-8868
order@hikaritype.com www.hikaritype.com

おかげさまで 51周年

尾崎真由美会計事務所

金ビザ、全米サポート、法人・個人税務申告、給与計算、経理代行、税務署からの手紙対応、会社設立

IRS 監査プロテクションプラン
IRS対応年間無制限

1-(877)827-1040
E-mail: info@1040me.com

ウェブサイト
1040me.com

デイリーサン・インスタグラム

DAILYSUN
NEW YORK

https://www.instagram.com/daily_sun_new_york

巻頭特集

ニューヨークから始まる これからの日本人学校・補習授業校

世界は今、大きな転換期を迎えています。

地政学的リスクの高まり、地球温暖化の進行、そしてAIによる急速な技術革新。これらは一国で完結する課題ではなく、国境を越えて向き合うべき地球規模のテーマです。

だからこそ、これからの時代に求められるのは、世界を俯瞰し、自らの軸を持って行動できる力です。

その動きは既に始まっています。慶應義塾大学や早稲田大学が帰国生入試の縮小・廃止を打ち出したことも形式的な「帰国生」という枠を超え、実質的な経験と質を伴った人材を求める流れの一端といえるでしょう。では、海外にある日本人学校・補習授業校は、これからのどのような役割を担うべきなのでしょうか。ニューヨークで日本人子女教育に関わる3人に、対談を通じて聞きました（敬称略）。



異孝之



綿引宏行



武田秀俊

慶應義塾ニューヨーク学院長。1955年東京都渋谷区恵比寿生まれ。上智大学卒業。コーネル大学大学院博士課程修了 (Ph.D.1987年)。現在、慶應義塾大学文学部名誉教授 (21年〜) を経て現職 (22年〜)。アメリカ文学思想史・批評理論専攻。日本文学会監事、アメリカ学會理事、日本アメリカ文学会第16代会長を歴任。09年から北米学術誌 The Journal of Transnational American Studies 編集委員。

海外子女教育振興財団理事長。1957年2月東京浅草、浅草寺の真横で誕生。79年東京海上火災保険 (現東京海上日動火災保険) 入社、2009年から米国東京海上社 CEO (2010~11年ニューヨーク教育審議会副会長)。13年東京海上日動火災保険 常務取締役、16年東京海上日動 HRA 代表取締役社長、20年から (公) 海外子女教育振興財団理事長。

DAILYSUN New York President / ニューヨーク育英学園理事長兼学園長。1977年大阪生まれ。京都大学経済学部卒業 (2001年)、インディアナ大学経営大学院 (ケリススクール) 修士卒業 (05年)。リソナ銀行、PwC、Permal Asset Management、CMIC Holdings を経て現職。京都大学成教長戦略本部アドバイザー、(公) 海外子女教育振興財団アドバイザー。その他、中央教育審議会臨時委員、横浜市教育委員会委員など。

Q1. 帰国生入試の縮小、何を意味しているのでしょうか？

異: 「帰国生」という枠には幅があります。英語ができて、その背後にある文化を理解しているとは限らない。言語を翻訳できても、文化を翻訳できないことがあるのです。

いま求められているのは、単なるバイリンガルではありません。文化を横断し、自らの軸を持って行き来できる力です。慶應では「トライカルチャー」という概念を掲げています。日米に加え、福澤諭吉先生ゆかりの思想的軸を持つこと。そこまで踏み込んだ人材像が問われています。

綿引: 英語力は前提条件であって評価軸ではありません。多文化環境で社会課題を理解し、異なる背景を持つ人々と協働できるかどうか。帰国生枠の見直しは、本質的なグローバル人材をどう見極めるかという段階に入ったことを示していると思います。

Q2. 地球規模の課題が広がる時代に、日本人学校は何を育てるべきでしょうか？

異: AIが進化する時代に問われるのは、思考の深さと人格の厚みです。知識を持っていること、使いこなせることは違います。体験を重ねること、その体験を自分の内面に落とし込めることもまた違います。

大学入試の現場でも、「何を経験したか」よりも、「その経験をどう解釈し、自分の

言葉で語れるか」が問われています。多文化環境にあるニューヨークでは、価値観の違いが日常です。その違いを理解し、自分の立場を整理し、言語化できる力こそが重要です。

武田: そうした時代背景を踏まえ、私たちが掲げているのが「世界に羽ばたけ NY 育英っ子！」という標語です。目指すのは、「ニューヨークならではの日本教育」です。

日本の学校以上に日本を「理解」し、現地校以上にニューヨークを「体験」する。そのうえで、常に、挑戦、挫折、また挑戦を繰り返しながら、世界で活躍できる力を育てます。教育は三つのタイプで構成しています。

知識教育では、日本の学習指導要領に準拠しながらも、日米、そしてグローバルな視点に立ち、日本や世界を相対的に俯瞰できる力を身に付けます。

体験教育では、ニューヨークの特性を生かし、国際機関や世界的アート、グローバル企業との出会いを通じて学びを「現実」に結び付けます。体験を通じて価値観を相対化し、知識を實力へと転換していきます。

人間教育では、大人として「生きていく力」を身に付けます。社会やグループの中でのふるまい方を学び、多様な考え方や文化の違いを理解し、「Respect Each Other」を実践できる力を育てます。



ただし、この三つの教育が機能するためには「土台」が必要です。私たちは、メンタルヘルスと情操教育をその土台と位置付けています。挑戦・挫折・再挑戦の循環を可能にするためには、心身の充実が不可欠です。

Q3. ニューヨークという都市は、教育にどんな可能性を与えるのでしょうか？

綿引: 日本国内で語られる「グローバル」とは異なり、ここでは多文化環境が日常です。その経験は日本企業や社会にとっても大きな価値を持つはずです。

日本の経済や社会は今後も国際的なつながりの中で発展していきます。その中で求められるのは、単に海外経験がある人材ではなく、多様な価値観の中で意思決定ができる人材です。ニューヨークで育つ経験は、その基礎を日常の中で培う機会を与えてくれます。

武田: ニューヨークは「小さな地球」です。多様な文化や価値観が交差する環境の中で、子どもたちは自然と相対化の力を身に付けます。

世界的企業、国際機関、アート、スポーツ。圧倒的な機会の中で育つ経験は、子どもたちの視野を広げます。同時に、学校は教育機関であるとともに、コミュニティのハブにもなり得ます。

子どもたちだけでなく、保護者、卒業生、企業、地域社会が集い、つながる場所。地域と連携したバザーや公開行事、企業出

張授業などを通じて、学びは学校の外へと広がります。自前の校舎を持つということは、世代を超えて同じ場所に集い続けられる拠点を持つということでもあります。

ニューヨーク市内から最も近く、校舎も保有する在外教育機関として、ニューヨーク育英学園では、今後もコミュニティのハブとしての役割も積極的に果たしていければと考えています。

Q4. 在外教育は、これからのように進化すべきでしょうか？

綿引: 日本人学校、補習授業校、現地校。それぞれを個別に見るのではなく、エコシステムとして連携する視点が必要です。

異: 教育は子どもたちの内面に灯を点すこと。種を蒔き続けることです。その姿勢こそが、これからの在外教育に求められるのではないのでしょうか。

武田: 海外での経験を単なる体験で終わらせない。学力や人格形成にどう結び付けるか。またコミュニティ・エコシステムの力をいかに強化し、教育に取り込めるか。その設計力が問われています。

今年9月、ニューヨークでは「これからの日本人学校・補習授業校のあり方」をテーマにしたシンポジウムが予定されています。

形式から本質へ。経験から實力へ。ニューヨークから、新しい教育のかたちが動き始めています。



日系教育機関特集

4月、日本では新しい学年がはじまる季節となりました。ここニューヨークの日系教育機関でも、フレッシュな気持ちで新学期をむかえる生徒たちがいます。

ニューヨーク日本人学校

NY日本人学校が描く日本人教育の未来

1. NY日本人学校だからこそ実現できる「教育の特色」

■日本の教育×実践的な英語環境の融合

本校は、日本の学習指導要領に基づいた教育を土台としながら、初等部では週4時間、中等部では週5時間の英語授業を実施しています。アメリカ人教師による指導に加え、ART科も英語で行っており、日常的に英語に触れる環境が整っています。

また、校外学習や学校間交流などを通して、学んだ英語を実際に使う機会を積極的に設けています。



地元密着型の校外学習



現地校との交流学習

■NYの人材・企業と連携したキャリア教育

ニューヨーク市および近郊で活躍する人材や企業を招いたキャリア教育講演会を実施しています。実社会の話を直接聞くことで、世界で通用する人格の育成や、夢と目標を持つことの大切さを学びます。

■少人数教育によるきめ細やかな指導

各学年1クラス、約10人前後の少人数環境の下で、生徒一人一人に丁寧に向き合う指導を行っています。児童生徒同士の距離も近く、安心して学べる環境が整っています。

3. NYで育つ子どもは何か違うのか

■日本への提言

日本の教育は過小評価されることがありますが、世界的に見ると、大きなメリットが数多くあります。どの子どもにも一定の学力を保障すること、人との関わりを大切にしながら協力して成し遂げること、行事を通して心身共にたくましく創意工夫ができる人格に育つことなどです。

特に小・中学校の時期には母語の完成を最優先にすることが大切です。確固たる日本語を身に付けさせ、自分の考えを明確に持ち表現できる子どもを育てることが重要だと考えています。日本型教育の強みである「基礎学力の定着」「協働する力」「行事を通じた人間形成」といった要素は、国際社会においても大きな価値を持ちます。

本校卒業後は帰国して高校に進学する他、日系の私立高校や現地の高校



インタラクティブな学びを重視

に進む生徒もいます。世界を広くとらえ、夢を大きく語りながら、熱心に着実に取り組む生徒が多いのも本校の特徴です。

■未来の学校の姿

本校は、日本型教育の価値を基盤としながら、それを世界に発信していく拠点となることを目指しています。

日本語による思考力と人格形成を土台に、英語などの言語力やコミュニケーション能力を掛け合わせることで、異なる文化や考えを理解し、つなぐことのできる人材の育成を目指しています。

今後は地域社会との連携をさらに強化し、地域から学び地域へ発信する学校として、多様な交流の場を創出していきます。

2. 学校の基本情報

■校舎

3年前に移転した白を基調とした校舎が特徴。明るく清潔感に満ちた環境が整っています。

■時間割

一日5~6時間
朝8時25分始業、15時35分下校

■学校の規模

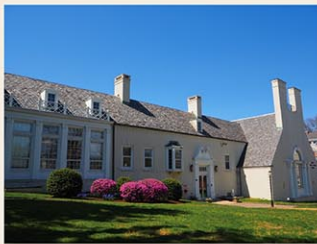
各学年約10人で、初等部1年生から中等部9年生まで各学年1クラスの編成です。

■スクールバス

あり
ウエストチェスター、イーストチェスター、ハリソンなどを経由し、グリニッチ周辺まで、広範囲にカバーしています。

■ランチ

要弁持参
ボランティアによる弁当販売日も一部設けています。



校舎の外観

■宿題の量

日本の学校と同程度

■保護者の関わり

学校の運営はPTO活動で支えられており、授業参観などの行事への保護者参加率はほぼ100%です。



授業では、言葉を使って考えることを優先している



ニュージャージー日本人学校

日米の教育を融合した、これからの学び

1. ニュージャージー日本人学校だからこそ実現できる「教育の特色」

■中一貫×教科担任制による専門的指導

本校では初等部から教科担任制を導入し、複数の教員がそれぞれの専門性を生かして授業を担当しています。

専門性の高い授業と異学年合同授業を組み合わせることで、学力の向上と豊かな人間関係づくりの両立を図っています。

また、教員・児童生徒とともに日本各地から集まっており、多様な地域文化に触れながら日米両文化を体験できる環境が整っています。

■本物の英語環境と国際体験

文部科学省からの派遣教員による英語の授業に加え、週3時間のESL、さらにARTの授業も英語で実施。児童生徒は日常的に英語に触れる環境の中で、自然と英語で考え伝える力を身に付けています。

現地校との交流や、国連本部・自由の女神などへの校外学習、フィラデルフィアやボストンでの歴史学習など、体験を通じた学びも充実しています。

また、パンキンビッキングやジャック・オー・ランタン制作など、アメリカの文化に触れる活動も盛んです。

小学4年生・時間割の例	
時間	内容
1時間目	国語
2時間目	ESL (アメリカ人講師)
3時間目	ART (アメリカ人講師)
4時間目	算数
5時間目	体育 (4・5・6年合同)
6時間目	NJ (総合的な学習の時間：現地校交流に向けた学習)
7時間目 (25分間)	学級活動

中等部8年生・時間割の例	
時間	内容
1時間目	理科
2時間目	体育 (7・8・9年合同)
3時間目	ESL (アメリカ人講師)
4時間目	数学
5時間目	ART (アメリカ人講師)
6時間目	NJ (総合的な学習の時間：現地校交流に向けた学習)
7時間目 (25分間)	学級活動

2. 学校の基本情報

■校舎

広場には本校のシンボルであるメイプルの木があり、季節ごとに表情を変えながら子どもたちを見守っています。

図書館にはリラクスペースがあり、ピースクッションで読書を楽しめる環境が整っています。

■学校の規模

2026年3月現在、1年3人、2年4人、3年3人、4年4人、5年3人、6年3人、7年10人、8年5人、9年6人の計41人。

各学年1クラスの少人数制で、一人一人に丁寧に向き合う教育を行っています。

■スクールバス

あり。2路線運行

パラマス方面 / ウェストニューヨーク・フォートリー方面

■ランチ

要弁当持参



恒例・夏の水鉄砲大会

■宿題の量

日本の学校と同程度

■保護者の関わり

PTO(PTA)が中心となり、夏祭りやホリデーイベント、ランチ企画などを実施しています。



タートルバック動物園への遠足 (初等部)



学校間交流も盛んに実施 (初等部)

■社会とつながる学び

中等部では日系企業の東京海上アメリカと連携し、「リスクと未来を考える授業」を実施。8年生の職場体験では地域の日系企業と連携し、実社会とつながる学びを行っています。

■進路指導の充実

進路指導では、国内外の進学情報の提供、年3回の説明会、個別面談、面接練習などを実施。特に6・9年生の受験生に

対しては、きめ細やかな指導で希望の進路実現を支えています。

主な進学実績 (過去3年間)

- ・国際基督教大学高等学校
- ・東京学芸大学附属高等学校
- ・立命館高等学校
- ・立命館宇治高等学校
- ・慶應義塾高等学校
- ・慶應義塾ニューヨーク学院高等部
- ・早稲田大学本庄高等学院
- ・京都東山高等学校
- ・埼玉県立浦和西高等学校
- ・パラマス・ハイスクール

国内外への進学実績が、本校の教育の成果を示しています。



リバティ島へ遠足 (初等部)



ボストンでの宿泊学習 (中等部)

3. NYで育つ子どもは何が違うのか

■日本への提言

アメリカで生活しながら学ぶ子どもたちは、異文化への柔軟性や多様性を受け入れる姿勢を自然に身に付けています。また、自分の考えを表現する力や、失敗を恐れず挑戦する姿勢も育まれます。帰国後の日本社会や私立学校 (進学先) においても、このような経験は大きな強みとなります。英語が話せるだけではなく、多様な価値観を理解し、異なる文化をつなぐ役割を担う人材として期待されます。

■未来の学校の姿

今後は、探究的な学習の充実、日系企業や国際機関、現地校との連携強化、ICTを活用した学習の推進などに取り組んでいく予定です。国際都市ニューヨーク近郊に位置する日本人学校として、日本の教育の良さを大切にしながら、世界につながる人材を育てる学校づくりを進めていきます。児童生徒一人一人の未来を支える教育をこれからも実践していきます。



ニューヨーク補習授業校

NY補習校が描く日本人教育の未来

1. NY補習校だからこそ実現できる「教育の特色」

■キャリア教育

キャリア教育の一環としてロングアイランド校では、第一線で活躍する保護者を講師に招いた特別授業を行っています。一昨年は音響技師と土壌研究者、昨年は言語学者とそば職人が教壇に立ち、子どもたちはそれぞれの専門分野に触れながら、仕事の魅力や社会とのつながりについて学びました。

実際の現場で活躍する大人の話を直接聞く体験は、将来の選択肢を広げるだけでなく、「働くこと」への具体的なイメージを育む貴重な機会となります。

■日本語を話す仲間と、一緒に育つ

補習校は「日本語で話せる仲間がいる場所」です。知識を詰め込むだけでなく自分で考え、発言し、仲間と共に学び合う授業を大切にしています。

運動会や生徒会活動など、日本の学校文化も体験できます。同じ悩みや苦



赤白に分かれて競う運動会

勞を知っている仲間と過ごす時間は、子どもたちの心の安定につながり、やがては一生続く友情へと育っていきます。

■アイデンティティの確立

補習校での学びは、自分のルーツや

アイデンティティを自分の言葉で語れる力につながります。単に外国語が堪能というだけでなく、自国の言語・文化・習慣をしっかりと身に付けたいので、他国の文化も理解し尊重できる。そんなバランスの取れた人間へと育



副教材でひらがなの練習



全校もちつき大会で日本文化を体験

ていきます。どの国や地域で活躍することになっても、ここで過ごした日々が、その人の背骨になっていくはずです。

2. 学校の基本情報

■校舎

ウェストチェスター校はポートチェスターのミドルスクール、ロングアイランド校はベイサイドのハイスクールを借用しています。

■スクールバス

なし

■ランチ

要弁当持参

■宿題の量や保護者の関わり

宿題は学年により異なりますが、音読練習や漢字練習の他、漢字スキルや算数ドリルなどの副教材を使用。オンラインAI型ドリル「eライブラリ」も導入しています。保護者会は全員加入が原則です。運動会をはじめとした学校行事や文化的活動、図書の出し出しなどのお手伝いをお願いしています。

3. NYで育つ子どもは何が違うのか

■日本への提言

月～金曜は現地校で、土曜は補習校で日本語と日本の文化・習慣を学び二つの文化・環境に囲まれて成長する補習校の子どもたちは、バイリンガルであると同時に、思考や行動面でも柔軟に対応できる力を備えています。世界の中から日本を見つめ、考え、行動できる基盤が育まれていると言っても過言ではないでしょう。彼らが日本と世界をつなぐ存在になるためには、「日本に同化」させるのではなく、多様なバックグラウンドや強みを生かす教育が重要だと考えています。

■広がる学びの場と、社会とのつながり

補習校はこれまで、帰国後に日本の学校や生活へ円滑に適応できるよう支援することを主な目的としてきました。



自分の考えを伝え合いながら学ぶ子どもたち

しかし今後は、帰国予定のない子どもたちに対しても、日本語での学びを通じて日本文化に触れながら成長できる環境づくりを、より一層重視していく必要があります。

週1日の貴重な学びの時間をさらに充実させるため、日系企業や団体との連携を深め、「本物」や「一流」に触れる機会を積極的に創出し、ニューヨークで育つ子どもたちの視野を広げ、将来の可能性を拓く教育を行っていきます。

時間割 (通常授業) W校の例

幼児部		初等部① 1年生~3年生		初等部② 4年生~6年生	
時間	内容	時間	内容	時間	内容
8:55~9:05(10分)	登校	8:55~9:05(10分)	登校	8:55~9:05(10分)	登校
9:05~9:20(15分)	HR朝の会	9:05~9:15(10分)	HR朝の会	9:05~9:15(10分)	HR朝の会
9:20~12:40	制作活動等、軽食、公園/ゲーム	9:15~10:00(45分)	1限授業(国語)	9:15~10:00(45分)	1限授業(国語)
		10:00~10:05(5分)	<5分休み>	10:00~10:05(5分)	<5分休み>
		10:05~10:50(45分)	2限授業(国語)	10:05~10:50(45分)	2限授業(国語)
		10:50~11:05(5分)	<15分休み>	10:50~10:55(5分)	<5分休み>
12:40~12:50(10分)	帰りの会	11:05~11:55(50分)	3限授業(算数)	10:55~11:45(50分)	3限授業(算数)
		11:55~12:00(5分)	<5分休み>	11:45~12:00(15分)	<15分休み>
		12:00~12:45(45分)	4限授業(国語)	12:00~12:45(45分)	4限授業(国語)
		12:45~12:50(5分)	帰りの会	12:45~12:50(5分)	帰りの会

幼児部は発達段階に合わせ、時程を弾力的に運用しています。



ニューヨーク補習授業校



Tel 914-636-3770 (事務局)
56 Harrison St., Suite 503, New Rochelle, NY 10801
<https://www.jwsny.org/>

ニュージャージー補習授業校

NJ補習校で育む、日米双方で活躍するための基盤

1. ニュージャージー補習校だからこそ実現できる「教育の特色」

■社会とのつながりを学ぶ

地域の日本人コミュニティや教育関係者を招いた講演会や文化体験活動などを実施しています。子どもたちは教室の中だけでなく、実社会とのつながりを感じながら学ぶことができます。

■似た環境で育つ友人との出会いは、心の支え

平日は現地校で英語中心の教育を受ける子どもたちにとって、補習授業校は日本語で学び、日本人の友人と出会い、日本文化への理解を深められる貴重な場です。特に初等部高学年から中・高等部にかけては、「海外で育つ」という共通の背景を持つ仲間同士の結びつきが強まります。互いの経験や思いを分かち合える友人の存在は、海外で成



毛筆体験

長する子どもたちにとって大きな心の支えとなっています。

■日米双方で活躍できるキャリア

本校の卒業生は、現地の高校・大学への進学、日本への帰国後の進学、日米双方でのキャリア形成など、多様な道を歩んでいます。補習授業校での学びは日本語力の維持にとどまらず、日本文化への理解や日本人としてのアイデン

ティティ形成にも寄与しています。日米双方の文化環境の中で育った経験は、多様性への理解と国際的な視野として、卒業後のキャリアにも生かされています。

■広い校舎を活かした運動会や式典

5月に開催する運動会は、本校を代表する一大行事の一つです。広々としたフィールドに幼児部から高等部そ

して国際学級まで約400人の児童生徒が集い、リレーや綱引き、玉入れなどの競技に全力で取り組みます。親子競技も行い、学校全体が一体となる活気あふれる一日です。

また、入学式・卒業式などの式典、始業式・新年の集いなどの全校行事は、約800人を受容する大講堂で盛大に執り行なっています。



日本文化に触れるイベントも多数開催



全校生徒が集まる運動会

2. 学校の基本情報

■校舎

現地の私立高校の施設を借用し、明るく開放的な環境の下で授業を行っています。大きな窓のある教室やカフェテリア、体育館、冬季も利用できるドーム型屋内テニスコートなどを活用し、児童生徒が安心して学び、交流できる空間づくりを大切にしています。

■学校規模

2026年度4月1日予定

- ・幼児部 計3クラス 32人（年中1クラス、年長2クラス）
- ・初等部 計17クラス 260人（1～5年各3クラス、6年生各2クラス）
- ・中等部 計6クラス 90人（1～3年生各2クラス）
- ・高等部 計2クラス 12人（1、2年生各1クラス）
- ・国際学級 計1クラス 12人

■スクールバス

あり。2路線運行
ジャージーシティ～エッジウォーター方面 / サミット方面

■ランチ

要弁当持参

■宿題の量や保護者の関わり

漢字・音読・日記や作文・国語や算数のワークブックなど、日本語力を継続的に維持・向上させる内容が中心です。



校舎の外観

■時間割（通常授業）

年間を通じて毛筆体験・硬筆コンクール・作文コンクールなど、日本語力と文化理解を深める活動も実施しています。

初等部		中等部	
時間	内容	時間	内容
8:50～9:05	登校	8:50～9:05	登校
9:05～9:15	学活	9:05～9:15	学活
9:15～10:00	国語	9:15～10:00	国語
10:00～10:05	休み時間	10:00～10:05	休み時間
10:05～10:50	国語	10:05～10:50	国語
10:50～11:00	休み時間	10:50～11:00	休み時間
11:00～11:50	算数	11:00～11:50	数学
11:50～12:45	昼休み	11:50～12:45	昼休み
12:45～13:30	国語	12:45～13:30	数学
13:30～13:35	休み時間	13:30～13:35	休み時間
13:35～14:25	算数または生活・社会	13:35～14:25	社会または選択科目
14:25～14:30	学活・下校	14:25～14:30	学活・下校

■保護者の関わり

本校では保護者による「父母の会」の活動が活発です。蔵書6400冊を有する図書室、将棋・茶道・剣道などの放課後クラブの運営、運動会をはじめとする学校行事のサポートなど、父母の会が学校生活を幅広く支えています。

年に一度の大バザーを通じた地域交流の他、弁当販売、現地大学進学情報セミナー、生活・資産運用に関するマネーセミナーなど、保護者にも役立つ情報提供や支援も積極的に行っています。

3. NYで育つ子どもは何か違うのか

■日本への提言

ニューヨーク・ニュージャージー地域で育つ子どもたちは、日常的にさまざまな文化や価値観に触れながら生活しています。異なる背景を持つ人と自然に関わる中で、多様な意見を受け止める柔軟性と、自分の考えを相手に伝える力が育まれます。こうした経験は、日本社会に新しい視点をもたらすだけでなく、国際社会で活躍するうえでも大きな強みになります。

■広がる学びの場と、社会とのつながり

補習校では年に2度の漢字検定に加え、借用校で実施されるAP Japanese試験は、ニュージャージー補習授業校の在校生のみが受験できるため、現在通っている現地校では受験できない生徒にとって、大きな利点となっています。また今後は、地域の日本人コミュニティや企業、教育関係者との連携をさらに深め、子どもたちが社会とつな



中・高等部の授業

がる学びの機会を広げていきます。

具体的には、現地で活躍する日本人ビジネスパーソンや研究者を招いたキャリア講話、在ニューヨーク日本国総領事館や地域の日系団体と連携した招待イベントなどの計画を進めています。

海外で育つ子どもたちが日本と世界の両方を理解し、将来それぞれの社会をたく存在として活躍できるよう、学校としても日常の学びの中で、日本文化の価値を自分の言葉で語れる機会を設ける環境づくりを続けていきます。



ニュージャージー補習授業校



Tel 201-585-0555 (事務局)
619 East Palisade Ave., Suite 1, 1st Floor
Englewood Cliffs, New Jersey 07632
<https://jwsnj.org/>

ニューヨーク育英学園

「世界に羽ばたけ育英っ子！」

—NYを体験し、日本を深く理解する唯一無二の教育

1. NY 育英学園ならではの「教育の特色」

■教育理念と安心の教育環境

ニューヨーク育英学園は、「世界に羽ばたけNY育英っ子！」を合言葉に①日本の学校以上に日本を理解し②現地校以上にニューヨークを体験し③恵まれた環境の下で挑戦と失敗、挑戦を繰り返すことができる「ニューヨークならではの日本教育」を教育理念に掲げています。また、在籍中だけでなく卒業後も、いつでも戻ってこられる“母港”のような存在として、子どもたちや保護者の心の拠り所であり続けることを大切にしています。

ニューヨーク育英学園は、ニューヨーク・ニュージャージーエリアに4つのキャンパスを構え、主な拠点となるニュージャージーキャンパスは独自の施設と広々とした校庭を有する点が大きな特徴です。豊かな自然環境の下、きめ細



ニュージャージー校舎の外観

かな指導体制により、一人一人の個性や成長段階に応じた教育を実現。海外生活特有の不安にも丁寧に寄り添い、安心して学べる環境が整っています。

■全日制・バイリンガル教育と豊かな体験プログラム

平日のインターナショナルスクール部門(全日制)と、土曜開講のサタデースクール部門(補習授業校)の2本柱を軸に、アフタースクールやサマースクール、スキー教室など、体験を通じて人間力を育むプログラムを大きな柱としています。

平日のインターナショナルスクール部門では、年少から小学6年生まで約100人が在籍、2歳半からのチャイルドケアも併設しています。年間を通して日本語3分の2、英語3分の1の割合で指導。日本語での思考力や読解力、表現力をしっかりと育みながら、自然な形で英語力を伸ばしています。毎週金曜は「英語の日」として英語で授業を終日実施し、実践的なコミュニケーション力を養っています。こうしたバイリンガル教育により帰国後の学習適応力を維持、スムーズな編入や進学にも対応できる柔軟な力を育成している点も大きな特徴です。

通学はスクールバスお



サマースクールでの幼児部・小学部の様子



ダブルダッチ部のスピード競技



餅つき大会でリーダーシップを発揮する6年生

びドライブスルー方式を採用。広いエリアからの通学が可能です。昼食は弁当持参が基本ですが、希望者には注文制の昼食も提供しています。放課後は器械体操、ダブルダッチ、水泳、野球、サッカー、ダンス、音楽、英語など多彩な活動を実施し、学年を超えた交流も活発です。特にダブルダッチ部は世界大会で優勝の実績を持ち、学園を象徴する取り組みの一つとなっています。

■サタデースクール：日本語の定着と日本文化の継承

サタデースクール部門はニュージャージーとマンハッタン、およびナッソー郡ポートワシントンのキャンパスで開講。幼児から高校生まで幅広い年代が在籍しています。週1回の授業で日本の学習内容を体系的に学び、文部科学省指定の教科書に基づいた指導を通して学年相当の学力を維持しながら、日本語力の定着を図っています。限られた時間の中でも家庭学習と無理なく連携できるようなカリキュラムを組んでおり、帰国後の学習ギャップを最小限に

抑える役割も担っています。また、日本の伝統行事や季節のイベントを通じて、日本文化への理解を自然に深める機会が多いのも特徴です。

■社会とのつながりとコミュニティとの絆を重視

両部門に共通する取り組みとして、ニューヨークに拠点を持つ企業を招いた「出張授業」があります。第一線で活躍する社会人の話に触れることで、生徒たちは将来の進路や職業観をグローバルな規模で具体的に描くきっかけを得ています。

PTA制度は設けていませんが、運動会などの行事では保護者が自主的にボランティアとして参加し、学校運営を支えています。定期的に開催されるイベントを通じて保護者同士のつながりも自然と育まれ、学園全体が一つのコミュニティとして機能しています。

2. 学校の基本情報・将来への展望

■NY 育英学園が選ばれる理由と卒業生の活躍

保護者からニューヨーク育英学園が選ばれる主な理由として「安心して通学できる環境」と「国際的な成長機会」の両立が挙げられます。日本語を基盤とした確かな学力とアイデンティティを育みながら、多文化が交差するニューヨークで柔軟な思考力を身に付け異文化への理解を深められる点は、日本国内では得難い大きな強みです。こうした経験は将来、グローバル社会で活躍するための土台となります。

卒業生はビジネス、アカデミア、芸術などさまざまな分野で活躍しており、バ

イリンガルとしての強みを生かして国際的な進路を選択するケースも多く見られます。幼少期からの経験が、その後の人生に大きな影響を与えていることがうかがえます。

また、教師と生徒の距離が近く、深い人間関係を築けることも大きな魅力です。在籍生・卒業生・保護者を問わず、いつでも戻ってこられる“母港”としての役割も本学園が重要視する価値の一つです。人生の節目や迷いの中で立ち戻れる場所があることは、子どもたちにとって大きな安心と支えになります。

■充実した季節行事と未来につなげる教育

学園では四季折々の行事も活発です。サマースクールは複数のプログラムから選択でき、1日を通して日本語または英語に浸る環境の下、学びと体験を融合させた時間を過ごすことができます。スキー教室も毎回高い人気を誇り、技術の向上とともに、仲間との絆を深める機会となっています。

今後は、ますます現地コミュニティとの協業を通じて、ニューヨークならではの教育価値を高めるとともに、日本の教育機関との連携を通じて、より



サマースクールでのびのびと遊ぶ幼児部の子どもたち

多彩で質の高い教育機会の創出を目指していきます。

ニューヨーク育英学園は、これからも世界に羽ばたく子どもたちの基盤を育てる教育機関として、進化を続けていきます。



ニューヨーク育英学園



Tel 201-947-4832
8 W. Bayview Ave., Englewood Cliffs, NJ 07632
<https://japaneseschool.org/>

早稲田アカデミー・ニューヨーク校

受験は通過点に過ぎない。合格の先を見据えて、
ニューヨークで育てる「本気でやる力」とは

海外で暮らしながら、日本の進学を見据える家庭にとって気になるのが、子どもの受験だ。「帰国生枠があるから大丈夫」という時代もあったが、状況は大きく変わりつつある。

慶應義塾大学や早稲田大学に代表される帰国生入試の縮小・廃止は、その流れを象徴する出来事だ。この変化は大学入試にとどまらず、中学・高校受験にも波及し始めている。いま問われているのは、英語力だけではない。海外での経験をどう捉え、どう言葉にし、どう将来につなげるかが重視される時代になっているのだ。

そんな中、早稲田アカデミー・ニューヨーク校は、「本気でやる子を育てる」との理念の下、受験をゴールとしない将来を見据えた教育を実践している。今回は、早稲田アカデミーのUSA 取締役・ニューヨーク校代表の川村宏一先生に話を聞いた。

学校が帰国生に
求めている力とは

学校側が何を求めているのかを知ることは、合格への近道だ。

帰国生入試において評価されるのは、単なる語学力ではない。海外での生活を通して得た経験や、多様な価値観の中で育まれた視点が重要視されている。ニューヨークで育つ子どもたちは、「みんな違ってみんないい」を地で行く環境の中で育っている。国籍も文化も違う友達と毎日接し、自分とは異なる価値観を受け入れている。

「そんな経験を持つ帰国生は、日本の学校において周りの子を刺激し、クラスを率いるリーダー的な役割が期待されます。少子化が進む中で、各校が独自の特色を打ち出していく必要性が高まっており、帰国生は、学校の『カラー』を形づくる存在として位置付けられていると感じます」

これまで数多くの帰国生の受験指導に携わってきた川村先生の言葉には、実感がこじむ。

早稲田アカデミーが大事にする
通常授業とは

塾に入れば、志望校に合格するための「魔法の近道」を教えてくれるのでは、と考えがちだ。しかし同校が最も大切にしているのは、「1回1回の授業」だ。

その考え方は、「予習は必要ない」という言葉にも表れている。

「1回1回の授業が一番大事だと思っています。最初にどんな方法で勉強するのが良いか、といった部分は、塾でしっかりやりたいんです。理由は、正しい思考の“フォーム”を最初に身に付けることが重要だからです」

近年は予習を前提とした学習スタイル

も増えているが、同校ではあえてそれを採らない。

「塾は“魚の釣り方”を教える場所です。どのように学習するのが良いか、その方法を塾で身に付けて、家庭学習で実践する。その方が効果的だと考えています」

重視するのは、「守破離」でいう「守」の段階だ。まずは教えられた型を忠実に守る「守」、そこから自分なりに工夫して発展させる「破」、そして最終的に型から離れ、自立していく「離」。

「最初は、教えられた通りに基本的に忠実に学び、正しい勉強方法を身に付ける。この土台があるからこそ、その先の応用や発展につながっていきます」

「魔法の近道」ではなく、丁寧に積み上げる力。その重要性を、早稲田アカデミーの授業は示している。

受験はゴールではなく、通過点。
志望校は、「行ける学校」ではなく「行きたい学校」

早稲田アカデミーが一貫して強調するのは、「受験は通過点」という考えだ。

「合格することを目的にするのではなく、その学校に入ってから何をやるのが重要です。受験は単なる通過点に過ぎません。そこで燃え尽きてほしくないんです」

志望校選びも、「行ける学校」ではなく「行きたい学校」。塾にとって、合格実績は一つの成果であるにもかかわらず、「行きたい学校」を推すのは、その子の未来を見ているからこそ。

子どもたちが、自分で考え、選び、行動していく力を持つこと。その土台を作ることこそが、教育の本質だと同校は考える。



「本気でやる子」とは何か

「本気でやる子を育てる」。これは、早稲田アカデミーが創業以来、50年以上にわたって大切にしてきた教育理念だ。

その意味を聞くと、単に努力できる子を指すわけではないと川村先生は語る。

塾で学ぶ意義は、もちろん算数や国語といった科目の力を身に付けることでもあるが、それ以上に重視しているのが、「頑張ればできる」という実感を持つことだという。

「大変な思いをしても、本気で取り組みれば結果が出る。その成功体験を積み重ねていくことが大事なんです。いわば『勝ちグセ』を身に付けてほしい」

さらに、この理念にはもう一つの意味がある。「本気でやる子を育てる」というのは、子どもだけでなく、私たち教師も『本気で向き合う』という意味なんです。子どもたちの可能性は無量大であるという前提に立ち、「こまごまできない」という枠を教師も外すことが、子どもたちを変えていく。

小さな成功体験が
子どもを変える

では、どうすれば「本気」のスイッチは入るのか。その具体例として川村先生が挙げたのが、漢字が苦手な生徒への指導だ。

「まずは目標を提示します。例えば、『漢字テストで毎回90点を取ろう』とか。点数が取れなかったときに、『どういった勉強をしたのかな?』と聞きます。何回書いたのか、意味を考えたのか。例えば『さんずいは、水の意味だよ』といったところから、理解を深めていきます」

そのうえで、次の目標を設定する。「いきなり100点を目指すのではなく、『次は60点』『次は75点』と、小

さな階段を用意してあげるんです」

そして、その階段を一つ一つ登った後に、しっかり認める。「できたね。約束した目標をクリアできたことを認めてあげると、子どもは次も頑張ろうと思えるんです。こうした積み重ねによって、『頑張れば結果が出る』という実感が生まれる。一人一人に合った目標設定をして、成功体験を積み重ねることで『本気でやる子』が育つ。

子どもを伸ばすのは
「気づく大人」の存在

こうした変化を支えるのが、大人の関わり方だ。「近くにいる大人が、変化に気づいてあげられるかどうか大事です」。どんなに小さなことでも見逃さず、すぐに声をかける。

もちろん家庭での声かけは大切だが、毎日向き合う保護者だからこそ難しい場面もある。だからこそ、第三者の視点からの声かけが、子どもの背中を押すこともある。

やがて子ども自身の中に「自分ができる」という確かな軸ができていく。それは受験のためだけの力ではなく、その先の人生を支えていく力だ。そして、その力は、ニューヨークという環境の中でさらに大きく育っていく。

受験はゴールではない。その先にある未来に向かって、本気でやる子を育てる——その教育が、ここにある。

▶ 次回は、ニューヨーク暮らしならではの悩みと強みについて聞きます。



さあ、何しよう？

5~6月のNYイベントカレンダー

MAY

- 3日(日) ファイブ・ボロー・バイクツアー**
ニューヨーク5区を走破する、約3万人規模の都市型サイクリングイベント。
- 4日(月) メットガラ**
世界のトップセレブが集結する、この街を象徴するファッションイベント。

16日(土) ブルックリン・ハーフマラソン
プロスペクトパークからコニーアイランドへ駆け抜ける人気レース。

25日(月) メモリアルデー
全米で追悼行事が行われ、夏の到来を告げる祝日。

開催中 (4月3日に開幕)
スモークスバーグ
木〜日、マンハッタンとブルックリンの計3会場で開催。話題の屋台グルメが集結する人気フードマーケット。

JUNE

3日(水)~14日(日) トライベッカ映画祭
映画・音楽・カルチャーが融合する、ニューヨーク屈指の国際フェス。

5日(金)~7日(日) ガバナーズ・ボール
トップアーティストが集結する、ニューヨーク最大級の音楽フェス。

14日(日) ナショナル・プエルトリカン・デー・パレード
5番街を中心にマンハッタンを縦断する、ラテン文化最大級の祝祭パレード。

20日(土) マーメイドパレード
鮮やかなマーメイドが街を彩る、コニーアイランド名物イベント。

28日(日) NYCプライドマーチ
多様性を祝う、世界最大規模のLGBTQ+パレード。



蕎麦屋
sobaya

手打ちそば

229 E 9th St,
New York, NY 10003

www.sobaya-nyc.com

sobaya.nyc

NEX
NIPPON
EXPRESS

For Where You'll Go Next



We Find the Way

海外引越

最新情報
はこちら



SAKAI
不動産

卓越した交渉・抜群の信頼性、NYビジネス経験40年のNY不動産エキスパート

sakai@sakaifudosan.com
917-679-7515

いいね!
facebook

最新情報を今すぐチェック!
www.facebook.com/dailysunny

DAILYSUN
NEWYORK

随時更新!
おもしろおかの
SAKAIの
ニューヨーク
ブロ〜グ

事業継承のニーズが高まっています

事業売却をお考えの方
ご連絡ください



米国と日本
両方面からサポートする

株式会社Horizon Global Management & Integration (HGMI)

米国オフィス 305 East 47th Street, 10th Floor
New York, NY 10017 TEL 646-470-9915

日本オフィス 〒160-0023 東京都新宿区
西新宿3-3-34-1507 TEL 050-3557-3806

Horizon
Global Management & Integration

Email info@horizonzgm.com <https://www.horizonzgm.com>

商業不動産、コンド、レンタルアパート、投資、レストラン、店舗、オフィス等のエクステンション(延長)、
リニューアル(更新)等のリース交渉も評判抜群のSakai不動産に御連絡下さい。

なぜあなたはNYに？ 日本人ニューヨーカーに聞く 「10の質問」



No.1

石川 智子
Ishikawa Tomoko

職業：プロダンサー



小柄な身体からあふれ出るエネルギッシュなダンスと、突き抜けた感性。これまでジャンプト・ジャクソンやマドンナ、カーティ・B、BTSなど、誰もが知る大物アーティストから高い評価を得てきたダンサーの石川智子さんは、エンターテインメントの本場ニューヨークで、第一線を走り続けている。「ニューヨークしか選択肢になかった」そう語る彼女は、今年でこの街に住んで14年目になる。そもそもなぜニューヨークに？これまでの経験を振り返ったとき、支えてくれたものは？10の質問から探っていく。

Q1. 職業は？

ダンサーです。

Q2. ニューヨークに来たのはいつ？

2012年です。今年で14年目になるので、4年前からニューヨーカーということになりますね(この街は10年住んでようやく認められると言われてるの)。

Q3. 何をきっかけに？

小さい頃からずっとダンスをしていたのですが、ダンスから少し離れた時期があって。でも母に「今やらないなら、もう助けられないしお金も出さない」と言われて。ずっと応援してくれていた母親がそこまで言うなら・・・と、ニューヨークに行くことを決めました。当時22歳でした。

ちなみに母はダンサーではないのですが、歌舞伎や日本舞踊に関わっている家系だったので、見る目はあったんでしょうね。「先見の明」ってやつです。ダンスを続けていたのも母の存在が大きかったので、仕事を掴むのも彼女の喜ぶ顔が見たい一心で、がむしゃらにやってきました。

Q4. なぜニューヨークだったのか？

子どもの頃から、勝手にニューヨークって決めていたんです。子どもって、行ったことも見たこともない街を想像するじゃないですか。でもその想像の世界は、LAみたいに見えるけどポカポカした街じゃなくて、ビルがたかさん並んでいて少し薄暗い街で(笑)。

実際に来てみたら、当時思い描いてい

た通りの街だったんです。だからずっと「ここに来る」って分かっていたんでしょね。ニューヨークという選択肢しかなかったです。

Q5. ニューヨークでの挑戦で、いちばん心が折れそうになった出来事は？

ありすぎます(笑)。でもやっぱり、ピザがない時に大きな仕事を掴んだことですね。有名なアーティストのツアーに呼んでもらえたのに、ピザがないから仕事を受けられないという現実を突きつけられた瞬間は本当に心が折れました。ピザがないとアメリカ人と同じ土俵で戦えないというのが分かって、それが一番きつかったです。

ちなみにそのアーティストはミッシェル・エリオットという世界的に有名なラッパーなのですが、ピザを取る前に受けたオーディションに受かって、当時は「輸入品」のように特別に参加させてもらえたんです。その後、正式にツアーに呼んでもらったけれど・・・という。でもその時の苦い経験が、ピザを取るきっかけになりました。

Q6. ニューヨークで心を救われた経験や、一番うれしかった出来事は？

あんまり救われてないかも(笑)。という冗談で、ニューヨークって、いつでもチャンスが転がっているか分からない街なんです。一步外に出れば人生が変わることもある。そういう結果につながったときは「救われたな」と思いますね。

「今日は休みだし疲れたし、家にならうか

な」と思っても、自分のお尻を叩いて一步外に出てみる。それが大事だと思っています。

あとは、ダンサー以外の友達やコミュニティにもすごく救われてきました。悩みは基本的にダンスのことなので、それをダンサー仲間と話すとライバル同士だからぶつかることもあるんです。そんなときにダンサーじゃない人たちがとすごく助けられます。それは今でも変わってないですね。

ダンサーの友達しかいない人と、他の分野の友達がいる人では、視野の広さが全然違う。アーティストやディレクターなど、いろんな分野の人と話すと、それぞれ違う壁や悩みを持っていて、それを聞けるのがありがたいですね。むしろ今はダンス以外の友達としか遊ばないくらいです(笑)。

Q7. 座右の銘は？

ベタかもしれないですが、「継続は力なり」です。どれだけ成功している、続けられる人が上に行くと思うんです。何事においても。信念ですな、信じる力。

Q8. 今の夢は？

リアルな話で言うと、子どもが欲しいし、結婚もしたいです。これまではそういうことを全部後回しにしてきたので、今年で37歳になるので、そろそろ自分も母にもらったように、子どもに何かを与えたいと考えるフェーズに入ってきました。

あとは、ずっとダンスに関わる仕事を続けていきたい。やっぱり、やり続けることですね。

Q9. 幼少期の自分に声をかけるなら？

「そのまま突き進んでいいよ」ですね。道を外れたこともあったし、ダンスをやめようと思ったこともあったけど、今こうして続けられているので。あの頃の自分に「自分を信じて突き進んでほしい」と伝えたいです。遠回りも必要だったので。

Q10. ニューヨークで一番お気に入りの時間の過ごし方は？

昔はクラブやパーティーが好きだったけど、今は暖かい日に芝生でワインを飲むことですね。あとはおいしいカフェに行ったり、コーヒを飲んで、スイーツを食べることです。



Tomoko's ニューヨークのおすすめスポット

暖かい日に乗るフェリー

「最近は電車よりもフェリーに乗ることにハマっています。マンハッタンからブルックリンに行ったり、クイーンズのビーチに行ったりしています」

Instagram: @daily_sun_new_york では撮影裏も見られるリールも公開中



第2話以降のエピソードはウェブでご覧いただけます



JAPAN PARADE 特集

ジャパNDER

Japan Parade & Street Fair

日本文化を祝福し、その魅力を街全体で分かち合う特別な一日

セントラルパーク周辺にパレードや屋台が集まり、街が日本色に染まる

日米の人々が交わり、熱気と興奮に包まれる交流の場



JAPAN PARADE

- ・開催日 / 5月9日 (土)
- ・パレードルート / Central Park West 81丁目から67丁目へ南下
- ・開始時刻 / 13:00
- ・ストリートフェア / 72丁目, Central Park WestとColumbus Aveの間
- ・ストリートフェア開始時刻 / 11:00-17:00



■ ストリートMAP




熱い夏が やってくる

夏期講習要項近日公開!

詳細はお問い合わせください。

✉ info@sapix.nyc ☎ 914.305.3053

2026 前期 帰国入試 5月7日(木) 体験授業 申込受付中

進学セミナー ニューヨーク校/オンライン

SAPIX INTERNATIONAL NORTH AMERICA

JAPAN PARADE 特集 — INTERVIEW —

「1日限りのせなレドで終わらせなさい」



ニューヨークの春を彩るジャパンパレードが、今年で第5回を迎える。日米友好、日系コミュニティとの連携、そしてニューヨーク市民への感謝。初回から掲げてきた3つの柱は変わらない。だが、節目の年を迎えた今年、幹事会社を中心とした事務局が見据えているのは、その「次」だ。

「第5回という節目でもありますし、これまで築いてきた基盤を生かしながら、新たなステージに進みたい。5月の風物詩として定着できるようにしていきたい」。彼らが強調したのは「定着」という言葉だった。



2025年にニューヨークで開催されたジャパンパレード

まだまだ知られていない「日本のお祭り」

「認知度については、まだまだ課題があります。日本人の中でも知らない人がいますし、日本人以外への浸透も十分とは言えません。基盤はできつつありますが、それを持続的に成長させるといふ点では、まだ十分ではないと感じています」

当日はニューヨーク在住の日本人のみならず、日本からの出展者やそのサポーター、日本好きのニューヨーカーが駆けつけ、確かに盛り上がる。沿道は笑顔であふれ、太鼓の音が響き、フードブースには列ができる。しかし、その熱が翌日以降も続いているかと問われれば、正直まだ弱い。

ニューヨークには、セントパトリックス・デー・パレードやアフリカン・デー・パレード、ウエストインディアン・デー・パレードなど、数十年単位で続く大規模な行事がある。観客動員は数十万人規模、ものによっては100万人規模ともいわれる。企業スポンサーも固定化され、学校や地域団体、ローカルメディアとの結び付きも強い。それらと比べれば、ジャパンパレードはまだ発展途上だ。

幹事会社が毎年変わる体制の中で、運営の経緯や蓄積されたノウハウをいかに次につないでいくかが、継続的な課題となっている側面もある。だからこそ今年、事務局ではその「継承」にも重きを置いている。単年の成功ではなく、積み上げていく構造へ、持続可能でありながらも“爆発力”のある仕掛けを模索していく。

5回目を迎えるNYでの事務局が挑む



ニューヨークに住む日本好きが数多く参加する

第5回ジャパンパレードでチェアマンを務める、KDDIアメリカの社長兼CEOの大石聡さん、実行委員長を務める副社長の渡邊貴一さんにインタビューした。



ポップカルチャー発信に注力、今年のゲストは？

今年のジャパンパレードには、舞台「呪術廻戦」のキャストが特別ゲストとして来米する予定だ。「日本の伝統文化・芸能をテーマにしたパフォーマンスに加えて、舞台『呪術廻戦』のアクターさんが来米する予定です。なお、同作の舞台版の日本国外でのお披露目は初めてと聞いています」

ジャパンパレードへの参戦が決定した舞台「呪術廻戦」© GA/SJKS



ジャパンパレード、 “日本コミュニティー強化”の軌跡

昨年の「進撃の巨人」に続くのは「呪術廻戦」。世界中、特にアメリカでの支持が高い作品であり、ファンのパレード参加にも期待がかかる。

アニメは、もはや一部のファンだけの文化ではない。ニューヨークのKinokuniyaをはじめとする書店には漫画コーナーが並び、年に2回開催される大型アニメイベントには、コスプレ姿の若者たちが集う。

その熱量を、パレードにつなげる。今年は、これまで十分

にリーチできていなかった若い世代の集客を強化するため、「ポップカルチャーの発信」に重きを置いた。「そのためには、ローカルの特に若い世代をきちんと巻き込んでいく必要があると考えました」

きっかけは、アニメ NYC(Anime NYC)への視察だった。「会場ではニューヨークカーが日本文化に敏感に反応している姿を見て、衝撃を受けました。これはテーマとして使わないわけにはいかないと思いました」



© Acky Bright



2025年のアニメ NYC

熱狂的なコスプレイヤーが集うアニメ NYC

アニメイベントで出会った、 今年の「進行役」

そして、同イベントで出会ったのが、日本のアーティストのアッキー・ブライト(Acky Bright)さんだ。「ライブドローイングをしているすごい人がいて、“なんだこれは”と驚きました。日本人のようだったので声をかけて、そこからつながりができました」



漫画アーティストのアッキー・ブライト(Acky Bright)さん

日本出身の漫画アーティストであるアッキーさんは、繊細な線と躍動感あるキャラクター描写で知られ、その作風は“かわっくこい”(kawakakkoi)と評される。ポップで親しみやすいが、どこかエッジがある。

最大の特徴はライブドローイングだ。下書きをほとんど行わず、その場の空気を取り込みながら即興で描き上げる。制作過程そのものがパフォーマンスとなり、観客との距離が一気に縮まる。

2024年から2025年にかけてジャパン・ソサエティーで展覧「Acky Bright: Studio Infinity」を開催。アニメ NYC 期間中のプレビューを経て本展へと発展した。マクドナルドやネットフリックスなど、グローバル企業とのコラボ実績も持つ。

「アメリカと日本をつなぐという考え方にも共鳴し、今年のジャパンパレードの象徴として、グランドマーシャル(名誉進行長)をお願いすることになりました」



初の公式マスコット誕生、 気になる名前は…

そして、その出会いから生まれたのが、初の公式マスコットだ。「今年限りではなく、今後も継続して使える存在にしたい。ジャパンパレードといえはこのマスコット、と認知してもらえらる象徴的な存在として育てていきたい」モチーフはリス。「ジャパンパレードの舞台のすぐ側にある、セントラルパークを起点にしたつながりを大事にしたい」

Tシャツとジーンズというニューヨークらしい装いに、日本のハッピーを重ねた。ニューヨークと日本を同時にまとった存在だ。

「かわいさだけでなく、リーダー的な、けん引していく存在にしたい」毎年思い出される“顔”として、まずは今年をマスコット誕生を記念したTシャツやステッカーなどのオリジナルグッズの販売も行っていき、将来的には日本関連イベントへの登壇なども視野に入れているという。

さらに、このマスコットは、より多くの人々がジャパンパレードに関われるよう、名称を一般公募で決定。応募総数187件の中から「Happy」に決まった。

寄せられた案には、漢字の「栗鼠(リス)」にちなん

で「栗」を使った名前が多く見られたほか、「祭」「りんご」「ニューヨーク」など、この街を象徴する言葉も目立った。

「定着させて、 一つのプラットフォームに」

「定着させて、一つのプラットフォームのような形にしていきたい。日本文化を知ってもらうだけでなく、文化団体や企業、個人がつながる場所として活用してもらえらる場にしたい」

ニューヨークで日本文化を発信する場として、毎年自然に思い出される存在になれるのかどうか。第5回も、その方向性を示す年になる。

何度も繰り返された「1日限りのパレードで終わらせない」。その言葉が現実の形になるかどうか、今年の取り組みがどこまで積み上がるかにかかっている。取材・文・一部写真/ナガタミユ



最近のニューヨーク、何があった？

2026年に入ってからの出来事を、デイリーサンの特集で振り返り。

グルメ、暮らし、おでかけ、トレンド&エンタメまで、注目のハイライトを厳選。変化のスピードが速いこの街の最新情報は、デイリーサンにお任せ。

Gourmet

- グルメ部門 -

SNSで話題の フードも特集

特集記事はこちらから読めます



- 01 1個800円でも食べたい!?
「NYの極上クロワッサン」5選を食べ比べ
- 02 世界一に選ばれた
NYの「四角いピザ」とは?
編集部員が食べてみた
- 03 トレジョで買える
「ゴールデン烏龍茶」
日本のあれにそっくり? 編集部が飲み比べ
てみた
- 04 スーパーボウルで
一夜にして世界的話題に
パッドパニーが再現したNY・ブルックリンの
「名物バー」とは?



- 05 NYで高級スーパーが
流行っている
15ドルのジュースや750ドルのキャビアを
買うのは、どんな人?
- 06 NYで人気上昇中の上海発
ティブランド「TEAPULSE」
新店舗が競々とオープン。気になるお味は?
- 07 NYが誇る「絶品ベークブルイ選」
老舗デリから行列店まで、食べ比べてみた
- 08 コストコのフードコートは
なぜ人気?
低価格の秘密と日本・アメリカの
メニュー比較
- 09 NYのおいしいフードデリバリー
7選
行列のできるハラルフードから
ミシュラン中華まで
- 10 札幌の人気ラーメンシェフが
NYに
「食事としてのラーメンは海外の方が浸透し
やすい」

じわじわと注目を集める高級スーパーへの潜入や、SNSで「日本の商品に似ている」と話題になったトレジョ製品の飲み比べなど、
鮮度の高いニューヨークのグルメ情報が満載。

Spot

- おでかけスポット部門 -

旬なおでかけスポットや イベントネタをキャッチ

特集記事はこちらから読めます



- 01 MoMAの「食料品店」が
期間限定でオープン
NYらしい空間に「カワイイ」が止まらない
- 02 極寒のNYで「旅行博」に熱気…
日本ブースには人だかり、浮かび上がる“
次の訪日先”とは?
- 03 ルイ・ヴィトンの“ホテル”が
NY・ソーホーに出現
モングラム130周年の豪華体験
- 04 日本の雑貨をNYへ——
北米最大級の雑貨展
DECO BOKOが仕掛ける「ジャンパン戦略」



- 05 NYで今見るべき現代アート展
「ホイットニー・ビエンナーレ」開幕
巨大インスタレーションや日本人作品も
- 06 ニューヨークから愛される
「ユニクロ」
「銀行」のビルを活用したミッドタウン新店舗
に潜入
- 07 アメリカで勢い止まらぬ
「ユニクロ」
ブルックリン新店舗オープンに400人以上が
列を作る
- 08 NYグランドセントラルで
無料アート展示
SNSで話題の「メトロカードドレス」とは?
- 09 子どもと楽しめる遊び場5選
「無料なのにすごい」と噂の穴場スポットも
- 10 NYで人気の展望台「エッジ」
食事すると無料で入れる「裏技」があった

日本の旅行博や雑貨展から、現地ニューヨーカーが集まるアートやファッションの話題まで。
中でもこの春は、ユニクロの新店舗オープンが大きな注目を集めた。

Trend

-トレンド部門-

街のトレンドやエンタメ情報などを詳しく深掘り



特集記事はこちらから読めます

01 「ありがとう、メトロカード」

ニューヨーカーに愛された黄色いカードの行方…

02 NYに“ラブレター専用ポスト”が出現!

赤いポストに想いを投函する、バレンタイン企画

03 雛祭が前人未達の“宇宙”での酒造り

リーダーを任せられたのは30歳の若手社員

04 NYに空前のサウナブーム到来! 水着OK、カップル御用達…

日本とは違う“大人の楽しみ方”とは



05 結婚式を公共の場で!?

タイムズスクエアのバレンタイン行事がNYらしすぎる

06 日本の若手デザイナーが輝くNYファッションウィーク

初挑戦の現場に流れる汗と涙

07 NY発“AIデートングカフェ”に潜入

月額11ドルで恋人を買う時代到来?

08 三重と島根がNYでイベント開催、ゲストはあの人

現地メディアが日本の“新たな旅先”として注目するワケとは

09 俳優・小出恵介はなぜニューヨークを選ぶのか?

役者人生の先に見えた「存在意義」

10 「お疲れさま、久下さん」アメリカでの日本語放送の“顔”

28年勤務めた久下香織子さん、軌跡を振り返る

メトロカード販売終了の背景や、ニューヨークのデート文化といったトレンドも押さえつつ、日本にまつわるエンタメ情報も欠かさずカバー。

Lifestyle

-くらし部門-

アメリカ生活でのコツを“日本人目線”でお届け



特集記事はこちらから読めます

01 NYで誕生日にもらえる無料サービス&特典25選

スタバ、マック、高級スパも【保存版】

02 トレジョの買い物客が選ぶ人気アイテム

部門別No.1に輝いたのは?

03 NYに初めての“無料スーパー”が誕生

「全てのニューヨーカーに開放」とは本当なのか?

04 家賃が“比較的”安い15のエリア

次に引越するならココ!



05 NYの高級スーパーで買いたいモノ8選

日本へのお土産にもセイバースやトレジョがコナじゃない

06 1番安いスーパーはどこ?

最新ランキング発表、日本人に人気のコストコやトレジョは…

07 NY在住日本人の7割が利用、デリバリーはどこまで日常化?

独自アンケートから見た実態

08 トレジョ新作トートに朝から行列

ラベンダー人気で転売も続出

09 テイクアウトでもチップは必要?

NYで広がる「払うか問題」、現地の本音を聞いた

10 NY駐妻の「空白期間」が、帰国後に武器になる

ジェトロが示すキャリアの新しい可能性

ニューヨークでの暮らしがちょっと便利に、ちょっと楽しくなる話題を日々発信中。日本人からの支持が厚いトレジョは、やっぱり外せない人気コンテンツ。

#アメリカの日本酒カルチャー

ドジャースが開いた

八海山が描く

ロサンゼルスのだジャーススタジアムで日本酒が販売されているのをご存知だろうか？ 日本酒「八海山」の老舗酒蔵、Hakkaisan 八海醸造グループとのパートナーシップが始まって約1年、大谷翔平選手ら日本人選手の活躍も追い風となり、アメリカだけでなく日本国内でも反響が広がっている。ドジャーススタジアムでビールと並んで日本酒が提供される、かつては想像もなかった光景が現実となった今、この取り組みについて八海醸造株式会社の社長、南雲真仁さんに話を聞いた。



野球観戦の定番フード、ホットドッグと日本酒の相性は意外と抜群



ドジャーススタジアムで販売されている Hakkaisan の日本酒

「お客さまからの反響はとてもいいですね。スタジアムで飲むお酒というビールを思い浮かべる人がほとんどだと思いますが、野球は展開がゆっくりな分、じっくりと飲むことができる日本酒が意外と合うんです」と南雲さん。

価格は1杯19.99ドル(純米大吟醸)で、ビール1杯と同じ価格帯で販売されている。アルコール度数や、ビールを飲んだ後の“お手洗い問題”を考えると、日本酒はスタジアムで飲むお酒として新たな選択肢の一つともいえる。

スポーツ × 日本酒の意外な組み合わせ

Hakkaisan がドジャースとパートナーシップ契約を結んだのは2025年3月。ドジャース側からの声かけにより実現したコラボレーションで、「初めは嘘かと思っていました」と当時を振り返る。



八海醸造株式会社の社長、南雲真仁さん



スタジアムで提供されている専用カップ

一方で南雲さんは「実際にはカクテルよりも、そのまま飲む人の方が多かったです」と話す。「それもまた日本酒が受け入れられている一つの指標なので、光栄ですね」



ドジャーススタジアムで限定販売されている缶製品

さらに今年は、昨年反響のあった缶製品にも力を入れていく予定だ。スタジアムの席で手軽に飲めるオリジナル缶は、見た目のデザイン性も好評なことから、生産数を増やしていくという。ドジャースでは大谷翔平選手をはじめ日本人選手の活躍が続き、日本各地から観戦に訪れるファンも多く、「お土産」や「ジャケ買い」需要にも応えている。

日本酒の新しい入回

「世界飲料」への道

「ドジャースを嫌いな人はいない」

アメリカでの展開に加え、日本国内でも影響は「想像以上」だったという。八海山を代表する「特別本醸造」は、通常の茶色いボトルに加え、ドジャースのチームカラーであるブルーの記念ボトルを発売。さらに昨年のナ・リーグ優勝、ワールドシリーズ優勝のタイミングでも記念ボトルを発売し、いずれも関心を集めた。



ドジャース優勝を祝して発売された記念ボトル

「普段、日本酒をあまり飲まない層にも、記念ボトルをきっかけに手に取ってもらう機会を作れました。興味深かったのは、ブルーボトルが売れることでオリジナル商品の販売が落ちるのではという懸念もあったのですが、実際にはオリジナル商品も例年並みを維持し、それに加えて記念ボトルの売上が上乗せされる形になりました」



連年販売されている「特別本醸造」

西はドジャース、東は？

Hakkaisanは日本での酒造りと並行して、「SAKEを世界飲料に」をスローガンに掲げ、海外でのSAKE文化の発信にも力を入れてきた。アメリカの西海岸ではドジャース、そして東海岸ではブルックリンにあるニューヨーク初の酒蔵として知られる「ブルックリン・クラ (Brooklyn Kura)」と協業している。



ニューヨーク発の酒蔵「ブルックリン・クラ (Brooklyn Kura)」

製品開発や日本での販売を支援する他、併設する「サケ・スタディーズ・センター (Sake Studies Center)」では、八海醸造で酒造りを学んだティモシー・サリバン (Timothy Sullivan)さんがニューヨークにSAKE文化を広めている。



ティモシーさんがブルックリン・クラで行う日本酒のベアリングセミナー

「実はドジャースとブルックリンにもつながりがあって、もともとドジャースはブルックリン生まれのチームだったんです。なので古参のファンには『ブルックリン』と書かれたTシャツを着てロサンゼルスで応援している人もいて、面白いですね」

南雲さんは、西と東それぞれの取り組みを通じて海外での日本酒の認知をさらに高めていきたいと語る一方で、「年々、国内の日本酒業界は縮小しています。そうした中でも、日本酒の価値をしっかりと伝えながら、楽しんでいただける環境を作っていければ」と話す。



ドジャーススタジアムには日本発の饅皮でも出店している

「Hakkaisanは清酒メーカーでありながら、ビール、焼酎、梅酒、甘酒、ジン、ウイスキーなども手がけています。そうした広がりも含めて、ブランドとしてのイメージをより立体的に作っていきたいですね」

野球、そして日本人選手の活躍とともに、日本酒文化とブランドイメージを発信していくHakkaisan。世界が注目するドジャーススタジアムで、ビールと並んで日本酒が販売される光景は、南雲さんが入社した8年前には想像もできなかったものだという。

10年、20年先、日本酒がどのような広がりを見せるのか。その可能性は、すでにスタジアムの中で少しずつ形になり始めている。

街の気になるレストラン



NYで「朝ラーメン」を仕掛けるアメリカ人女性

4席の小さな店に人々が夢中になるワケ

ニューヨークで今、最も予約が取りにくいラーメン店 Ramen By Raは、カウンターに4席だけの“朝ラーメン”に特化したレストラン。人々は人気アーティストのコンサートチケットを購入するかのごとく、予約解放のタイミングを狙い、毎回わずか数分で完売してしまう。今回は、そんな人気店を手掛けるオーナーのラシーダ・パーディー (Rasheeda Purdie) さんにインタビュー。2025年11月にオープンしたばかりの同店のこと、そしてラーメン作り込める思いを聞いた。「ラーメンをいつかニューヨークの定番料理に」。日本から海を渡ったラーメンが、ニューヨークで新たな文化として存在しようとしている。

ニューヨークと日本の「朝」から着想

Ramen By Raはニューヨークのローワー・イースト・サイドに位置するレストランで、週に5回、朝9時から午後5時まで営業する。メニューには、ベーコン・フライド・エッグ & チーズやエブリシングエッグ & ドロップなど、ニューヨークの朝食の定番であるベグルやプレートから得たアイデアと、日本の朝ラーメン文化を掛け合わせたユニークなラーメンが並ぶ。

メニューの独自性と、ただの派手さだけでは終わらないクオリティによって、根強いファンが増え続けている。

「ポップアップを経て、新しいロケーションでスタートして約5カ月が経ちましたが、ずっと来てくれている常連が5割、また新しい人たちが5割といった感じで、お客様のバランスがとてもユニークなんです。また、お店が小さいこともあって、常連さんたちは近況を話し合い、新しく来た人も隣に座った人との会話を楽しめる。あえて



店内は4席のみ。自然と横にいる人との会話も生まれる

このサイズが、良いんです」

カウンターにはラシーダさんとパートナーの2人が立ち、ラシーダさんが中心となって調理、提供、洗い物までを一貫して行う。だしの香りで満たされた店内で、ラシーダさんが丁寧に注文の入ったラーメンを作り上げていき、その間もカウンターに座る人々とのコミュニケーションを忘れない。

今の形になることは想像もしていなかったけれど、毎日すごくワクワクしているし、サポートしてくれているコミュニティには日々感謝でいっぱいです」

「調子はどう？」「今週お誕生日でしょ？おめでとう！」「前にも来てくれたたよね？、また会えてとてうれしいわ」「大好きなラーメンを自分で作り、友達に振る舞っていたのが始まりだったので、



「ベーコン・フライド・エッグ & チーズ・ラーメン」だしのコク深さにチーズや卵のまろやかさが絡み合う



現店舗を構える前、バウリーマーケット (Bowery Market) でポップアップをしていた頃 (photo: Rashida Zagon)



また会えるのを楽しみにしているわ、素晴らしい一日を

ラーメン作りに惹かれる理由

そもそも同店がオープンするきっかけは、コロナ禍のロックダウンにあった。ファッション業界でトップスタイリストとして長年働いた後、コロナ禍の数年前に飲食業界に転身していたラシーダさん。当時、周辺のレストランが閉まり、ラーメンが食べられなくなったことをきっかけに、自分で作り始めた。最初に作ったのは、アメリカ南部の定番料理と組み合わせた「ポットリカー・ラーメン」だった。

「燻製肉や骨を使ってじっくり煮込むポットリカーとラーメンが似ていることに気がつき、組み合わせてみたくて。すると、自分でもびっくりするくらいおいしくて、その時に『もっと学び続けよう』と思い、ラーメン文化やスープをより深く勉強し、友人や家族に振る舞い始めると、それが好評で『ポップアップをやってみたら』と言われるようになりました」

ラーメン作りのどこに惹かれたのか？ラシーダさんは「静けさ」と言う。「スープ作りは1時間、2時間、3時間かけてじっくり圧をかけていく、その丁寧さにすごく魅力を感じるようになり、心地良さを覚えるようになりました。その香りの中に1日中でもいられるんです。そこから、おいしいものにはこんなにも時間がかかっているのだということに、ありがたさや尊敬の念も感じるようになりました」

そんなラーメン作りを通して、シェフとしての料理法だけでなく、自分自身にも変化があったという。急いだけ、急かされたりすることのない静けさを楽しみ、忍耐強さも身に付いた。「より自分に時間をかけられるようになり、新しい自分にも出会えました」



ラーメン作りの魅力は「静けさ」と語るラシーダさん (photo: Clay Williams)



ラーメン店とは思えないような愛らしい内装。最近ではこの「窓」を使った持ち帰りサービスもスタートした

人々の滞店時間は「45分」

ラシーダさんの丁寧、そしてコミュニティを重んじる人柄は、実際にレストランの要となっている。日本では「時間をかけずに食べられるから」と選ばれがちなラーメンだが、同店に足を運ぶ人は、1か月前から予約を取り、わざわざ店を訪れる。「一日をとりきり良い日してくれる」人々はそんなラーメンを求めて、ローワーイーストにやってくる。

そして同店がユニークなのは、人々の滞店時間だ。日本では平均20分、長くても30分といったところだが、同店では「45分」という時間が設けられている。

「この45分というのは、日本で最早食べられている時間と、ゆっくり食事をする傾向にあるアメリカのレストランの中間に当たるんです。45分あれば食事を楽しめて、会話も弾む。また、レストランも生産的に回すことができる、ちょうどいい時間なんです」

「ニューヨークラーメン」として日本上陸

調理法や提供スタイルだけでなく、ラーメンそのものの楽しみ方にも新たな化学反応を起こすラシーダさんのアイデア。そして、なんと今年の秋は日本でのポップアップを予定しているという、日本から派生した文化が「ニューヨークラーメン」という形で逆輸入される。

「私が作るラーメンは伝統的なものではなく、日本、そしてニューヨークから影響を受けていて、そのバランスが良い形で表れているものです。なので、このように紹介されるのはとても光栄なことだと思っています。『ニューヨークラーメン』を通して両方の文化への愛と情熱を示し、それを日本で提供できることは、きっと面白い経験になると思うのでとても楽しみにしています」

自宅でのラーメン作りからスタートし、今では4席の小さなレストランを拠点に、独自のラーメン文化を発信していく。そして「いつかニューヨークの定番フードにしていきたい。ラーメン、そしてスープが好きなみんなの興味や愛を一つに集めながら、みんなにもっとワクワクしてもらえるように成長していきたい」とラシーダさんは意気込む。

日本で生まれた文化が海を渡り、海外の都市に根付くとき、それはただの食べ物ではなく「体験」として新たな価値を持ち始める。Ramen By Raは、まさにその良い例だろう。「ニューヨークラーメン」が今後この街で、そして日本のラーメン文化にもどのような影響を与えていくのかが離せない。

取材・文・写真/ナガタミユ
一部写真/Ramen By Ra 提供



1991年から続く、名誉あるジェームズ・ビアード財団のライジング・スター・シェフ賞 (James Beard Award for Emerging Chef) で、ファイナリストにも選出された (photo: Ben Hon)

Ramen By Ra

70 E 1st St
9:00-17:00 (月・火曜定休)
毎月1日、15日の9:00から予約サイト
RESYで予約可能
公式Webサイト
<https://www.ramenbyra.com/>
インスタグラム
@ramenbyra



チーズと長時間煮込んだ醤油ベースのスープも相性抜群 (photo: Nat Meier)

この街で活躍する日本人



NYの氷彫刻界で
トップを走り続けるのは…

日本人が営む岡本スタジオ
「始まりは父と1つのアイスマシーン」

ニューヨークの水彫刻業界で右に出るものはいないとんでもない「岡本スタジオ」。今は亡き岡本武夫（父）さんと2003年にビジネスを立ち上げた岡本慎太郎さんは、当時を振り返りながらこう語る。

「周りからは絶対にやらないほうがいいって言われたのですが、父と目を合わせたら「やるしかないね」って」
クイーンズ・アストリアに作業場を構え、結婚式や企業イベント、ブランドのプロモーション、映画プレミアなどのために特注の水の彫刻やインスタレーションの制作を請け負い、毎日大忙し。また、今やこのバーでも見かける良質な「カクテルアイス」の火付け役でもある岡本スタジオ。その始まりの物語とは？

きっかけは「アラスカ
での寒い冬の夜」

—— 氷彫刻に興味を持ったきっかけは？
小さい頃、父が日本食レストランのオーナーをしていた関係で、アラスカ州のアンカレッジに住んでいたんです。ある日、寒い冬の夜に湖に連れて行かれ、友達のパartyへの手土産として自分たちで彫った白鳥をプレゼントしたんです。するととても喜ばれて、そこから僕が父を手伝いながら、サイドビジネスとしての氷彫刻がスタートしました。
でもその当時はまだ子どもだったし、寒いし、冷たいし、うるさいし、全然楽しくないな、といった印象だったのですが(笑)。



ニューヨークの街中に展示された、岡本さんが手がける氷彫刻 (photo: 岡本スタジオ提供)



(左から) 岡本慎太郎さんと岡本武夫さん (photo: 岡本スタジオ提供)

—— ではいつ頃から魅力を感じるように？
ちょうど僕が14歳の時、アンカレッジで初めての国際彫刻大会に父のパートナーとして参加したんです。父はその大会のために、2日間ほとんど寝ることなく氷を彫り続けるというすごくストイックな人だったので、僕も必死にサポートして立派な作品が完成しました。そこで出会ったアーティストたち、

アイスクーピングをするコミュニティの人たちのユニークさやワイルドさ、情熱に強く惹かれました。この時の経験は、今でも大きな印象として残っていますね。
—— もともと岡本さんは幼少期からアートに触れながら育ってきたそうですね。
そうですね。ずっと絵を描くのが好きでした。それこそアメリカに来たばかりの頃は

そこまで英語も話せなかったのに、絵を描くことを通じて友達を作っていました。ランチタイムには当時上映されたばかりの映画「E.T.」を黒板に描いたりしていると、「絵が描けるんだ!」「これも描いて!」とクラスメイトがワーッと集まってきました。

その後も絵を描き続けていて、ブラウン大学でファインアートと医学を専攻した後、ニューヨーク市立大学ハンター校でアート

の修士号を取得しました。その間も父の彫刻デザインは手伝っていたのですが、いざ大学院を修了し進路を決めるタイミングが来た時に、教授の道に進んで決して高い報酬の中で厳しい競争の世界に入るのか、それとも自分で何かを始めるのか、迷っていました。そして最終的に親父と「一緒に何かやってみよう」となり、立ち上がったのが岡本スタジオの始まりですね。



クイーンズ・アストリアにある岡本スタジオで



「日本食レストランで毎日ブツダを制作するという仕事もありました」(photo: 岡本スタジオ提供)

— 信じるものが、親子の絆、そしてこれまで作り上げてきた作品だったと。

父は今までやってきたものを全部売って、家も引き払って、荷物をトレーラーに詰め…2003年の2月、一番寒い時期に約1カ月かけて母と一緒にカナダからアメリカを横断しながらニューヨークに来てくれました。

僕にとっては初めてのビジネスでしたが、父は常に「大丈夫」と言ってくれていて、本当にその言葉だけを信じていましたね。そして家族がニューヨークに到着して、土地探しをしていた時に出会ったのが、クイーンズのアストリア。

初めてのスタジオはイサム・ノグチ美術館のワンブロック離れたところにあったんです。でも氷彫刻を保存するフリーザーはどこで手に入れたらいいのかわからな

い状態だったので、大家さんの友達に簡易的なフリーザーを作ってもらって、父が持っていたアイスマシーン1つで制作を始めました。父の過去の経歴をポートフォリオとして活用しながら、とにかく自分たちでできるものを作り続けて、「声がかかるのを待つ」という孤独な6か月を過ごしました。

— 当時は今みたいにソーシャルメディアもなかったですね。

まさにおっしゃる通りで、「どうやって見つけてもらえるんだろう?」と不安ではありました。でも逆に、その時は他のオプションがなく、「やるしかない」という状況でした。ハイリスクに見える挑戦でも、僕たちの場合は並べられるものを並べていたので実はローリスクだったんです。

「親父は常に『大丈夫』と言ってくれていた」

— 親子二人三脚の物語が、再びスタートしたわけですね。

いざやってみようとはなったものの、当時の氷業界は価格競争が激しく、価格を落とし合い続けた結果、良いものが全然できていない状態だったんです。コネクションも全然なかったので、まずは友達に紹介してもらって日本人のエグゼクティブシェフに会いに行き、「氷彫刻をしようと思うんですけど、どう思いますか?」と話を聞いてもらったんです。すると「絶対にやらない方がいい!」と言われたけれど、父と目を合わせ

たら「やるしかないね!」って。
— 良いものがなかったからこそ、貴に目を付けたわけですね。

その時は既に10年間ほどニューヨークのアートの世界にいたし、英語にも不自由はありませんでした。父は長年の経験があるから何でも作れるという自信があったので、少々ハイリスクに思える挑戦でしたが、その一歩を踏み出すことができました。まずは氷彫刻をハイアートとして認められるように、今までにないビジュアルでプロポーザルを作るところから始めました。



幼少期の岡本慎太郎さんと師匠、そして父である岡本武夫さん(photo: 岡本スタジオ提供)



タイムスクエアでの作品展示(photo: 岡本スタジオ提供)



岡本スタジオで従業員にアドバイスする岡本さん

「他の氷会社がイベントの直前にキャンセルを」

— 孤独な半年間を経て、その後花が開く瞬間があったのでしょうか?

大きなターニングポイントで言えば、とあるクライアントがイベント直前に他の氷会社からキャンセルをされて、彼らが「どうしよう!?!」と途方に暮れていた時にうちを見つけて注文を入れてくれたことですね。「あなたたちできますか?」って。

「できます!」そのまま徹夜してスノーボーダーやアイスバーを作りました。偶然にも、その時に注文してくれたのが、ニューヨークで大活躍しているイベントプランナー兼ケータリング会社だった。そこで「良い仕事をしてくれた」と評価してもらい、そこから次の注文につながるようになりました。ニューヨーク、特にマンハッタンは島なので、口コミの影響力が本当に大きい。そこから他のクライアントにも紹介してくれて、仕事が少しずつ増えていったという感じですね。

— 一つのチャンスをモノにした。

ニューヨークでのビジネスはシブイな始まりでしたが、一度乗ってくると物事が一気に進みました。最初に来てくれたクライ

アントが本当に良い方々で、今でも一緒に仕事をしていますし、最初からトップと仕事ができただけでもありがたかったですよね。そこから意識していたのは、低価格でやっている他社に対して、自分たちは逆に意味のある値段を設定し、氷彫刻というジャンル自体に新しい土台を作ることでした。それが受け入れられたと思う、クライアントは「値段に差があるのはなぜだろう?」と興味を持ってくれたんです。

◇
アラスカからニューヨークへ、親子二人三脚で切り開いた氷彫刻の世界。形はあれど、いずれは溶けてなくなってしまう氷彫刻に、人々がお金を出したいと思う「価値」を自ら見出した岡本さん。ビジネスをする上で、大事にしている心構えとは? パート2に続く。

取材・文:一部写真/ナガタミュ

パート2はウェブでお読みいただけます



氷彫刻でできたシャンパンタワー(photo: 岡本スタジオ提供)



ワイスキーブランド「KIKORU」のコーポレーション氷彫刻(photo: 岡本スタジオ提供)



ニューヨークの街で輝く岡本さんの氷彫刻(photo: 岡本スタジオ提供)

早稲田アカデミー NY校 川村先生の 知って安心！ 帰国入試情報室 Vol.13

早稲田アカデミー NY校
川村安一（かわむら こういち）

早稲田アカデミー USA 取締役・NY校現地代表。2002年に早稲田アカデミーに入社後、校舎で7年間にわたり講師を務め、その後、高校受験部門にて英語科目の責任者を担当。現在の早稲田アカデミーの礎を築いた後、国際部に異動し、英語専門校舎の統括責任者に就任。2023年3月から現職。早稲田アカデミーの教育理念である「本気でやる子を育てる」を、海外においても実践している。お問い合わせは（メール：newyork@waseda-academy.com）まで。



“毎日少しずつ”が、いちばん難しく、いちばん強い ～成長する子は、特別なことではなく「続けること」を知っています～

4月は、新しい生活のリズムが少しずつ見えてくる時期です。子どもの勉強についても、思ったように進まない、「やり方を変えた方が良いのでは」「別の方法を試したほうが良いのでは」と感じることもあるかもしれません。けれども、子どもの成長において本当に大切なのは、うまくいかないたびに何かを変えることではなく、腰を据えて続けることです。今回は、学びの土台を支える「続ける力」について考えてみたいと思います。

子どもの勉強について考えるとき、私たちはつい「何をやるか」に目が向きがちです。どんな教材が良いのか、どんな勉強法が合うのか、どれくらいの量をこなせば良いのか。もちろんそれらも大切ですが、実際に子どもたちの成長を見てみると、それ以上に大きな差になるものがあります。それが、続ける力です。

とりわけ、勉強が思うように進まないときほど大人も子どもも不安になります。結果が出ない、やる気が見えない、取り組みが安定しない、そうした様子を見ると、「今のやり方が合っていないのでは」「教材を変えた方が良いのではないかと考えたくなるものです。もちろん必要な見直しはあります。ただ、うまくいかないたびに方法を変えては、せっかく芽が出かけていたものまで途中で止まってしまうことがあります。

成長する子は、最初から特別にできるわけではありません。むしろ、初めのうちは目立たなくても、毎日少しずつ積み重ねられる子が、後（あと）になって大きく伸びていきます。反対に、一度にたくさん頑張っても、それが続かなければ、なかなか本当の力にはなりません。

これは勉強に限ったことではありません。スポーツでも楽器でも上達するためにはある程度の時間が必要です。そしてその時間は特別な一日ではなく、何でもない一日の積み重ねによって作られます。勉強も同じです。「今日は少しだけでも机に向かう」

「宿題をきちんと終える」「分からなかったところをそのままにしない」。そうした小さな行動を続けられるかどうか、成長を大きく左右します。

これまで多くの子どもたちを見てきて、また私自身も仕事をする中で、上司から言われた言葉を思い出すことがあります。

「当たり前のことを、当たり前のようにやる」一見するとごく普通の言葉ですが、実はこれがいちばん難しいのかもしれない。勉強でも、毎日机に向かうこと、宿題をきちんと仕上げること、直しを後回しにしないこと。どれも特別なことではありません。しかし、そうした“当たり前”を積み重ねられる子ほど、後になって大きく伸びていきます。

ただ、ここで大切なのは「続けることは決して簡単ではない」ということです。むしろ、“毎日少しずつ”がいちばん難しいのかもしれない。何か新しいことを始めるとき、人は最初はやる気を持てます。しかし、その気持ちを何日も何週間も保ち続けるのは容易ではありません。気分が乗らない日もあれば、疲れている日もあります。結果がすぐに見えないと、「やっても意味があるのだろうか」と感じることもあります。

よく知られた言葉に「行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから」という一節があります。子どもの成長もまた、特別な一日によって決まるのではなく、日々の行動の積み重ねの中で形作られていきます。毎日の小さな行動は、その場では目立たなくても、やがてその子の習慣になり、学ぶ姿勢になり、将来の大きな力へとつながっていきます。

以前ある生徒が、毎日ほんの10分だけでも必ず復習をすと決めて取り組んでいたことがありました。最初から長時間勉強していたわけではありません。けれども、短い時間で「毎日やる」と決めて続けたことで、少しずつ理解が定着し、自信につながっていきました。特別な才能があったからではなく、特別な一日を作ったからでもありません。何でもない日を何でもないまま終わらせなかった

ことが、その子の力になったのだと思います。

家庭でできることも実はとてもシンプルです。大切なのは、「もっとやりなさい」と量を求めることより、「今日も続けられたね」と継続そのものを認めることです。子どもは、目に見える成果より先に、まず日々の行動を積み重ねています。その積み重ねを大人が見てくれていると感じられることが、次の日の一歩につながります。

また、継続のためには、ほめることもとても大切です。ただし、「頭がよいね」「すごいね」と結果だけをほめるのではなく、「今日も机に向かえたね」「昨日より早く始められたね」と、続けている行動そのものを認めてあげることが、子どもの力になります。そうした声がけは「またやってみよう」という気持ちも育てます。継続するためには気合いや根性だけではなく、続けたいくなる気持ち＝モチベーションも必要です。家庭での前向きな声がけは、その大きな支えになります。

また、続けるためには最初から高い目標を設定しすぎないことも大切です。毎日1時間勉強しようと思っても続かないのなら、まずは10分でも良いのです。大事なのは、「できる形」で始めることです。続ける習慣は、根性で作るものではなく、無理のない形を見つけながら育てていくものだからです。

子どもの成長は、派手な変化として現れるとは限りません。うまくいかないときほど、何かを大きく変えたいくなることがあります。けれども、本当に力が付いていくのは、そういうときにこそ腰を据えて、目の前の当たり前を続けた先です。特別な才能よりも、特別な方法よりも、まずは目の前の「当たり前」を積み重ねていくこと。

成長する子は、当たり前のことを当たり前のようにつづけることを知っています。

「知って安心！ 帰国入試情報室」の全連載はこちらでお読みいただけます



教育特集

ニューヨークの日系教育現場で育まれる学びと成長、行事や交流を通した子どもたちの姿と新学期への息吹を伝える「教育レポート」総まとめ



ひな祭りクッキングで広がる笑顔と交流

NY育英学園フレンズアカデミー・ウィークエンド・スクール

ニューヨーク育英学園フレンズアカデミー・ウィークエンド・スクールは3月1日、保護者参加の「ひな祭りクッキング」を開催した。幼児から小学生まで幅広い参加があり、日本の伝統行事に親しむひとときとなった。

調理体験では、ひな祭り用のカップ寿司作りにも挑戦した。酢飯を容器に盛り、キュウリやトマト、卵などの色とりどりの具材を思い思いに重ねていく。子どもたちは具材の配置や色合いを工夫しながら、見た目にも華やかな一品を仕上げていた。

参加した子どもたちからは、「自分で作ったお寿司、おいしい!」「うずらの卵でおひな様の顔を作ったのが楽しかった」といった声が聞かれた。保護者からも、「家庭ではなかなか体験させてあげられないので、貴重な機会になった」「親子で一緒に作る時間を取れたのが良かった」など

の感想が寄せられた。

続いていちごトライフル作りにも挑戦。スポンジケーキ、生クリーム、イチゴゼリー、イチゴを順に重ね、透明なカップの中に黄・白・赤の層を作っていく。材料を丁寧に重ねながら、それぞれが春らしいデザートを完成させた。子どもたちは「お店みたいにできた!」「またおうちでも作りたい」と、完成したデザートをうれしそうに見せ合っていた。

最後は全員で「いただきます」の時間。自分たちで作った料理を囲みながら自然と会話が広がり、学年や家庭を超えた交流が生まれた。ひな祭りの穏やかな雰囲気の中で、日本の行事を身近に感じる機会となった。

同スクールの滝澤ディレクターは、「季節の行事を通して、日本の文化を体験的に知ることはとても大切。子どもたちが楽し



ちらし寿司、おいしそうでしょ?

みながら取り組める機会を、これからも大切にしていきたい」と話した。(情報・写真提供: NY育英学園フレンズアカデミー・ウィークエンド・スクール)

真提供: ニューヨーク育英学園フレンズアカデミー・ウィークエンド・スクール

2025年度修了式を開催

NY日本人学校

ニューヨーク日本人学校(コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長)は3月10日、修了式を開催した。

森本校長が児童生徒代表に修了証書を手渡し、児童生徒もそれぞれ晴れやかな表情で受け取り、この1年が充実したものであったことがうかがえた。森本校長は学習や行事、活動を振り返り、子どもたちの成長を称えた。

修了証書授与式の後には児童生徒代表による発表会を行った。初等部3年生の児童代表は、知っている英語を使って現地校と交流を行ったこと、英検に挑戦したことなど1年間でできるようになったことを述べ、4年生の児童代表は楽しみながらさまざまなことにチャレンジしていき

いと、新たな目標を設定し学び続ける決意を発表した。

中等部の生徒代表は、中等部へ進学して身に付けたことについて振り返った。「英語があまり得意ではないと思っていたので、3学期にたくさん勉強した。結果、成績を上げることができた。努力は結果につながるのだと実感した」など1年間を振り返り、来年度もさらに自らの限界に挑戦したいと力強く話した。

この1年、さまざまな行事や学習を通して、子どもたちは心身ともに大きく成長したことが感じられる修了式となった。来年度も共に楽しい学校生活を送ろうと全員で誓い合った。(情報・写真提供: ニューヨーク日本人学校)

初等部、中等部の卒業証書授与式を挙行

NY日本人学校



初等部は5人(写真上)、中等部(写真下)は16人が門出を迎えた



ニューヨーク日本人学校(コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長)は3月3日、初等部第51回、中等部第49回の卒業証書授与式を行った。初等部5人、中等部16人の児童生徒が卒業の日を迎えた。

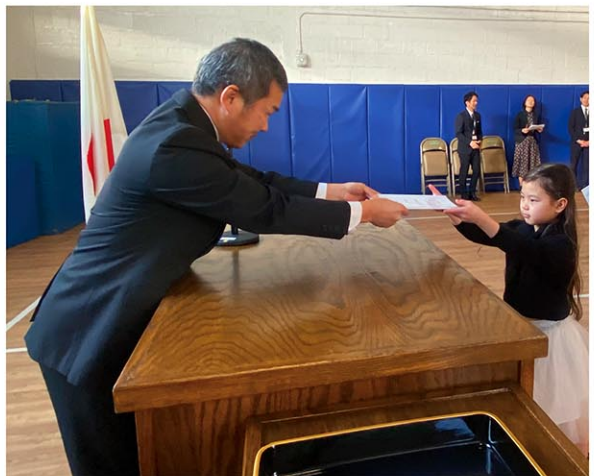
卒業式では、校長から一人一人に卒業証書が手渡された。担任からの呼名に大きな声で返事をする姿や、証書を受け取る姿は大変うれしく、成長の様子がよく感じられるものだった。来賓の祝辞や校長の式辞、在校生からの送辞や合唱から卒業することを改めて実感し、卒業への思いを高めている様子だった。

6年生の「門出の言葉」では、これまでの学校生活の集大成として一人一人が呼びかけを行った。1年間を振り返り、在校生

やお世話になった先生、ここまで立派に育ててくれた保護者への感謝の言葉を力強く述べた。5人が心をつ一つにして合唱曲「旅立ちの日に」を歌い、未来への希望や勇気を表した。

9年生の生徒代表が全員の思いを胸に答辞を返し、友達や先生、保護者など多くの人や行事との関わりを通して大きく成長したこと、これからも夢や希望に向かって努力していくことを誓った。クラス全員で歌った「友へ旅立ちの時〜」では、これからの人生への前向きな思いを表した。

新たな道へ進む卒業生が、それぞれの夢や目標に向かって大きく羽ばたいてくれることを願っている。(情報・写真提供: ニューヨーク日本人学校)



森本校長から修了証書を受け取る初等部の児童代表

毎月10日 メルマガ・ウェブで発行

edu sun 3

過去のedusunはこちら

エデュサン edu sun

日経電子版の法人契約
日経を読んでいる組織は強い

北米・中南米で1,000社以上導入

日経経済新聞

dailysunny.com

We
♥
NY

DAILYSUN
NEW YORK

www.windelsmarx.com

総合法律事務所 Windels, Marx & Mittendorf 法律事務所
Private Client Services, Estates & Trusts Practice Group

- 国内外エステートプランニング ●国内外ビジネスプランニング
- 国際相続 ●遺言 ●遺産管理 ●遺言税 ●事業継承

弁護士 Gary S. Moriwaki, Esq.
ゲリー・森脇
212.237.1068
gmoriwaki@windelsmarx.com

弁護士 Reiko Takikawa, Esq.
滝川 玲子
212.237.1073
rtakikawa@windelsmarx.com

WINDELS
MARX
Windels
Marx &
Mittendorf, LLP

まずはお気軽にご連絡下さい
156 W. 56th St (bet 6th & 7th Ave)
New York New Jersey Connecticut

ニューヨークの今、毎日お届け

NYに「日本のコンビニ」
奥はナイトクラブ!

俳優・小出恵介は
なぜニューヨークを選ぶのか?
役者としての先に見えた「存在意義」

編集部が行ってみたい
Dailysun NY Vlog

NEW YORK
MEETS JAPAN

ユニクロ最新情報
NY新店舗まとめ

世界最大級の日本食フェス
5ドルで食べ歩き天国!
「JAPAN Fes」開幕

公式インスタグラム @daily_sun_new_york では、イベント、グルメ、おすすめスポットを毎日発信。
インタビュー映像や潜入動画などのリールも続々更新中。今すぐチェック。

Follow us!

早稲田アカデミー ニューヨーク校

オンライン受講が可能です!

両方やります! 選択できます!

小1~中3 保護者様 対象

入塾説明会 無料 オンライン(Zoom)でのご参加も可能です

5/3日 時間▶13:30~14:30 ※米国東部時間
会場▶早稲田アカデミーニュー YORK 校

各学年のカリキュラムや運営方針、ご帰国後のサポート体制などについて詳しくお話しします。

小1~中3生徒・保護者様 対象

帰国生入試面接
準備講座 無料 オンライン(Zoom)でのご参加も可能です

5/30日 時間▶[中学生]13:00~13:30/[全体会]13:45~14:45
[小学生]15:00~15:30 ※米国東部時間
会場▶早稲田アカデミーニュー YORK 校

入試の面接や作文の中で「学校に求められている帰国生像」をご説明し、ご家庭でアピールポイントを考えるためのヒントをお伝えします。また、願書の書き方についてもお話しします。

小6・中3 対象

プレ夏期講習会
一時帰国・本帰国の受験生へ
志望校合格への土台をつくります
7/6日~17日(全10日間)
会場▶LOGOS AKADEMEIA(オンライン受講も選択可)

2026
帰国生・海外校
合格実績
公開中!

帰国後は
随時、早稲田アカデミー日本国内校舎の
通常授業への参加が可能です。
首都圏に約200校展開しています。
クラス分けテスト・体験授業をご希望の際はWebよりお問い合わせください。

新小1~中3 保護者様 対象
入塾説明会 無料
資料請求はこちら

早稲田アカデミーが帰国生のために
学研インテリジェント教育
学習サポートサービス 提供中

LOGOS
ACADEMIA

上記の講座やイベントの詳細・お申込方法については、
ニュー YORK 校までお問い合わせください。

newyork@waseda-academy.com 914-698-1100
1600 HARRISON AVE. SUITE 103 MAMARONECK, NY 10543